

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	予防接種事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	保健センター							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	予防係							
	総合計画 分野別計画	主目的	2 保健・福祉		6 健康づくり		1 心と体の健康づくりへの取組みを支援します									
		副目的														
	予算区分	款	4		項	1		目	2		大	2		中	1	
	根拠法令・個別計画	予防接種法														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	予防接種を実施することで、市民が感染症へ感染することを予防する。														
	内容 (手段)	<p>◆平成25年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種は、保健センターで実施する集団接種(BCG)と医療機関で実施する個別接種(麻しん風しん混合、四種、三種、二種混合、日本脳炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチン)があるが、全ての予防接種対象者に個別に通知した。また、安全な予防接種を実施するため、個人の接種を管理するとともに、広報、ホームページで周知した。 ・インフルエンザの予防接種の費用の補助を実施した。 ・愛知県の緊急促進事業として大人の風しんワクチン予防接種の費用の補助を行なった。 ・職員は、予防接種の実施及び予診票の発送、点検、委託料の支払事務を行った。 <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>予防接種協議会等委員謝礼等(45千円) 消耗品・通信運搬費・備品等(4,200千円) 予防接種委託料(345,498千円) 予防接種補助金(32,771千円)</p> <p>・その他財源の内容:インフルエンザ予防接種接種料(15,475千円) 後期高齢者医療制度特別対策補助金(2,109千円)</p> <p>○平成26年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団接種、個別接種については、平成26年10月より定期予防接種化となる予定の水ぼうそう、大人の肺炎球菌ワクチンを個別接種に加え実施する。 ・インフルエンザの予防接種の費用の補助については、平成25年度と同様に実施する。 <p>◆26年度直接経費の内訳</p> <p>予防接種協議会等委員謝礼等(120千円) 消耗品・通信運搬費・備品等(10,145千円) 予防接種委託料(423,376千円) 予防接種補助金(60,229千円)</p>														
	受益者負担	有 インフルエンザ予防接種受診料:自己負担額1,000円														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	426,477	440,144	382,514	493,870	
		正職員	従事者数	人	0.90	0.90	0.90	0.90
			人件費	千円	4,734	4,734	4,734	4,734
		その他職員	従事者数	人	8.00	8.00	1.00	0.00
			人件費	千円	989	524	472	0
		費用合計		千円	432,200	445,402	387,720	498,604
	対前年比		%		103.0	87.0	128.5	
財源	一般財源	千円	348,439	367,715	368,886	482,454		
	国・県支出金	千円	69,786	63,146	1,250	750		
	その他財源	千円	13,975	14,541	17,584	15,400		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	麻しん風しん混合実施医療機関	箇所	目標	55	57	57
実績				55	57	57	
三種混合実施医療機関		箇所	目標	55	57	57	57
			実績	55	57	57	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	麻しん風しん混合	人	目標	—	—	—	—
実績			5,472	5,610	2,811		
三種混合	人	目標	—	—	—	—	
		実績	1,220	1,523	1,778		

事業の自己評価	平成25年度の達成状況	集団接種、個別接種を実施することで、市民が感染症へ感染することを予防した。なお、麻しん風しん混合の実績値が半減しているのは平成20年4月から5年間の経過措置として、中学1年生・高校3年生に相当する年齢の人を対象に実施していた麻しん・風しん混合ワクチン第3期・第4期の予防接種が平成25年3月に終了したことによるものである。		
	事業実施における課題	乳幼児期の予防接種が過密になり、事故等の発生の恐れがある。		
	事業を縮小・廃止したときの影響	小児マヒ、麻しん、風しん、日本脳炎等への感染者が増加し、入院患者、死亡者が増加する。		
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	平成26年10月より予定の水ぼうそうワクチン、大人の肺炎球菌ワクチンの任意から定期接種への変更等に対応しつつ、引き続き、集団接種、個別接種を実施し、市民が感染症へ感染することを予防する。	
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	予防接種の変更等に適切に対応しつつ、引き続き、集団接種、個別接種を実施する。		
	27年度以降の改善案	乳幼児期の予防接種が過密になり、事故等の発生の恐れがあるので、引き続き実施医療機関への注意喚起を促すとともに、予防接種の変更等に適切に対応していくこととする。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。